

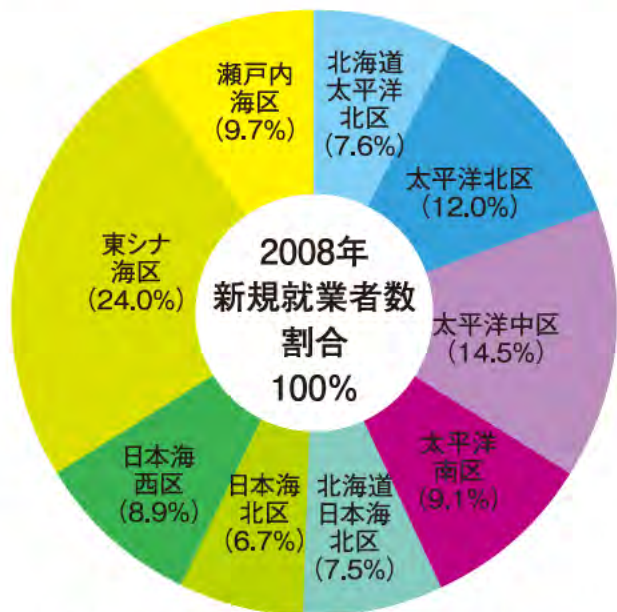
## 6 新規就業者の状況

### Q 新規就業者の多い大海区は？

2008年の新規就業者は1,784人で、大海区別の割合をみると、多い区は東シナ海区、太平洋中区、太平洋北区となっています。



大海区別における新規就業者の割合 (2008年)



注: 新規就業者には、新規学卒者のほかに他産業退職後の就業者も含まれます。

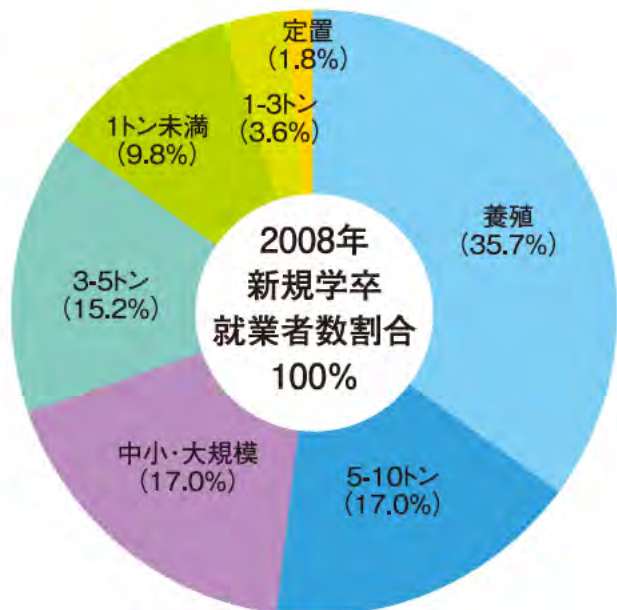
農林水産省「漁業センサス」

### Q 新規学卒就業者の多い経営体は？

新規学卒就業者のいる個人経営体の経営体階層別の割合をみると、多い階層は養殖、5-10トン(漁船規模)、中小・大規模の順となっています。



新規学卒就業者のいる個人経営体の経営体階層別の割合 (2008年)



注: 1トン未満、1~3トン……とは、漁船の規模による階層分けです。

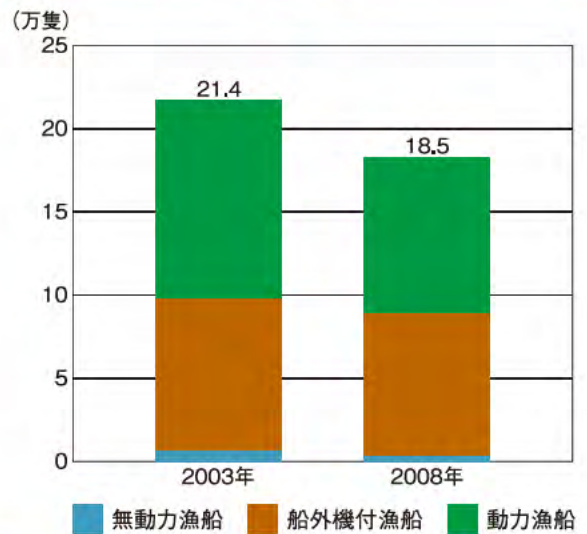
農林水産省「漁業センサス」



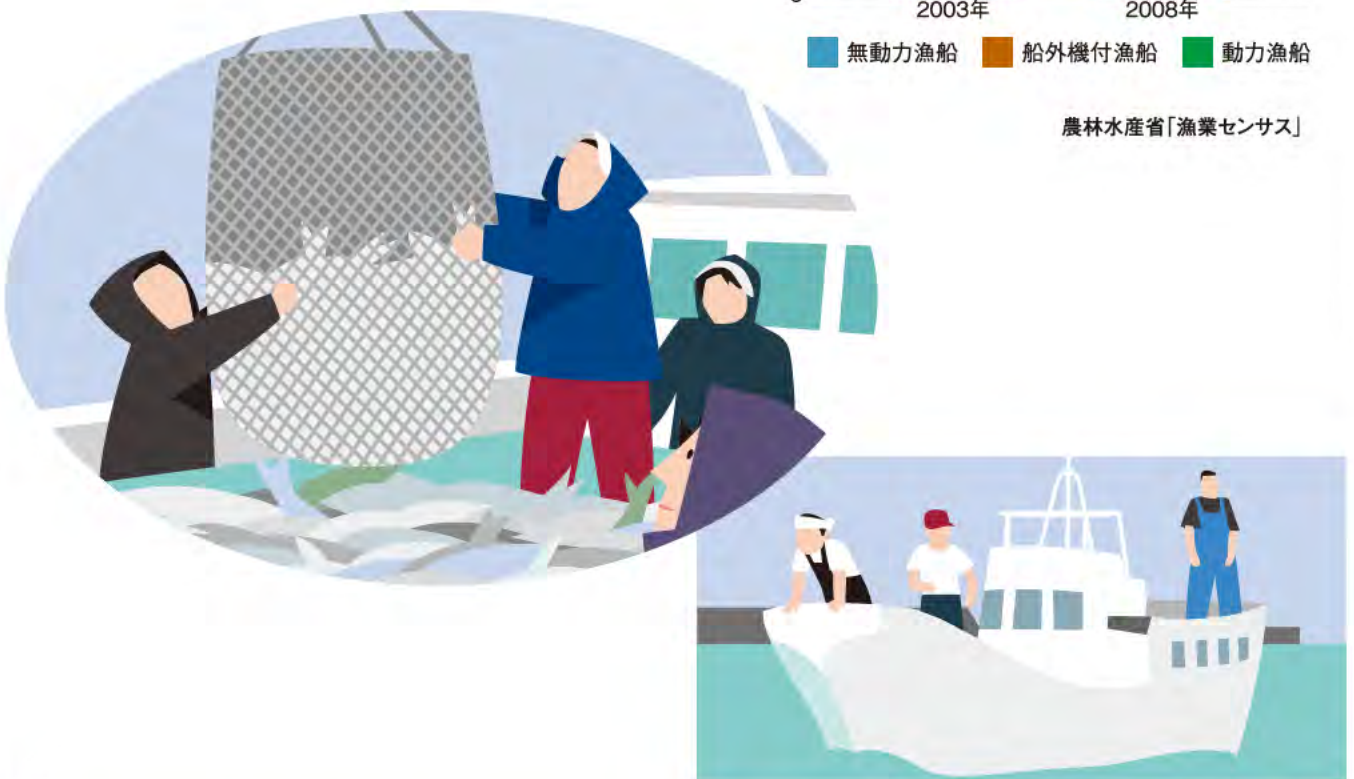
## Q 漁船はどれくらい働いているの？

漁船はほとんどの漁業で使用されています。漁業経営体が保有している漁船の総隻数は、18万5,465隻で、2003年に比べ13.3%減少しました。

漁船の数



農林水産省「漁業センサス」



## コラム 水産業もエコ時代：新技術でコストを削減する

水産業においても、省エネは重要視されており、様々な新しい試みが行われています。例えば、さんま棒受網漁業では発光ダイオード集魚灯の導入により、1航海当たり20～50%の燃油量の削減が実証されています。また、通常の4倍強度の高い繊維を用いることで軽量化した漁網を開発したり、重油で動く従来のディーゼルエンジンと電気で動くモーターを組み合わせたハイブリッド電気推進システムを小型漁船に導入するなど新しい技術の開発が進んでいます。

資料：平成20年版水産白書より



4倍の強度を持つ繊維を用いた漁具



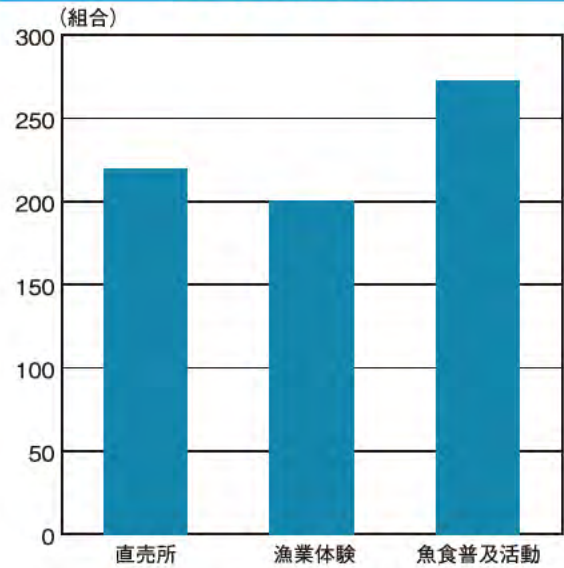
## 8 都市との交流

### Q 広がる漁協の交流活動とは？

漁業協同組合（漁協）では、都市住民等に向けて、漁業・漁村に対する理解を深めてもらうために、交流活動を実施しています。その活動には、多くの方が参加されており、直売所の利用者は年間延べ1,248万人となっています。



### 直売所、漁業体験、魚食普及活動を行っている漁協の数



注: 海面漁業地域調査において、全国の漁業協同組合を対象とした調査結果

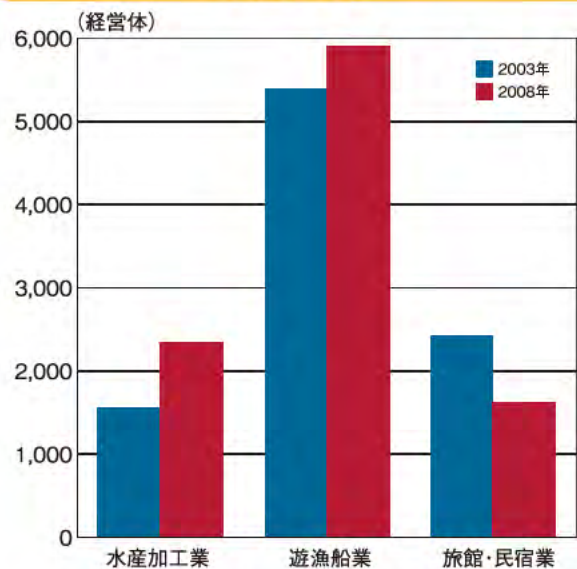
農林水産省「漁業センサス」

### Q 漁業・漁村の6次産業化への取組は？

漁業者は自営漁業の他に、漁業関連の事業にも取り組んでおり、水産加工業や遊漁船業に取り組む個人経営体が増えています。



### 個人経営体の6次産業化への取組の変化



農林水産省「漁業センサス」